



学校法人 電子学園

日本電子専門学校

令和7年度 第二回学校関係者評価委員会 令和7年12月1日(月)



－本日の予定－

全体会：

午後3時00分～

午後5時00分

※学校見学会(希望者)

午後5時10分～午後6時00分



校長挨拶

杉浦 敦司



学校法人 電子学園

日本電子専門学校

令和7年度教育重点項目 前期実績報告 評価・ご意見など

Googleフォーム:

<https://forms.gle/aQmPEjuEDgjMjzWh6>





令和7年度 教育重点項目 前期実績報告



報告内容

1. 学校の近況

2. 教育重点項目(中間報告)

1) NEXT10「日本電子専門学校のさらなる伸張」

- (1)「建学の精神」の実現に向けた「教育の質の保証・向上」
- (2)学生主導で社会人基礎力を養うキャリア教育の充実
- (3)新設学科開発フレームを活用した調査・検討
- (4)遠隔授業の標準化・質保証と先端テクノロジーの利活用

2) 教育全般の重点項目

- (1)学校教育法の改正に伴う単位制への移行
- (2)DenshiVision2030「日本電子専門学校の確かな歩みと新たな未来」



令和7年度 学校の近況

校長 杉浦 敦司

報告_1

学校教育法の一部を改正する法律(令和8年4月施行)

- ① 専修学校の専門課程の入学資格について、**大学の入学資格と同様**の規定とする。
- ② 専修学校となるために最低限必要な学習時間に関する基準を、**大学・高等専門学校と同様に「単位数」**により定めることができるようにする。
- ③ 一定の要件を満たす専門課程(以下「特定専門課程」という。)を置く専修学校には、**専攻科を置くことができる**こととする。
- ④ 特定専門課程の修了者全てについて**大学編入学資格を認める**とともに、当該修了者は**専門士と称することができる**こととする。
- ⑤ 専門課程を置く専修学校に**大学と同等の項目での自己点検評価を義務付ける**とともに、外部の識見を有する者による評価を受ける努力義務を定める。

報告_2

文化芸術活動基盤強化基金(クリエイター等支援事業)採択 ”世界に通用するゲームクリエイター育成のためのカリキュラム開発”

報道発表



令和7年6月27日

クリエイター支援基金（文化芸術活動基盤強化基金） 令和6年度補正予算事業

「クリエイター等支援事業（育成プログラム構築・実践）」採択先の決定

独立行政法人日本芸術文化振興会に置かれた「クリエイター支援基金」（文化芸術活動基盤強化基金）を活用して実施する標記の事業について、37件の採択先を決定しましたのでお知らせします。



1. 事業概要

マンガ・アニメ・ゲーム・映画・音楽等の分野において、大学・専門学校等と企業・関係団体等の業界が連携し、クリエイターや専門人材が、海外展開に必要なスキルを身に付けられるよう、国際的な場での実践を含む育成プログラムを構築・実践する取組を、5年程度の活動目的の下で3年程度、弾力的かつ継続的に支援するもの。

報告_3

東京都立通信制高等学校におけるデジタルスキルアップ講座運営
業務委託契約を締結

” 東京都教育員会「次世代の学びの基盤プロジェクト」”

「次世代の学びの基盤プロジェクト」

DX

デジタルとリアルの最適な組み合わせ

制度

学習内容や方法、単位の認定等の柔軟な運用

教員・組織

教員の役割や組織のあり方の改善

報告_4-1

1) Cisco APJC NetAcad Riders 2025

- ・ネットワークセキュリティ科
- ・「国内大会1・2位」
- ・「世界大会2・3位」



2) 第20回若年者ものづくり競技大会

- ・グラフィックデザイン職種 **金賞(厚生労働大臣賞)**
- ・業務用ITソフトウェア・ソリューションズ職種 **金賞(厚生労働大臣賞)**
- ・ウェブデザイン職種 **銀賞**
- ・ITネットワークシステム管理職種 **銅賞**



報告_4-2

3) 第63回技能五輪全国大会

・ウェブデザイン職種

銀賞/銅賞

4) 第3回技能五輪アジア大会

・グラフィックデザイン職種

・3Dデジタルゲームアート職種



報告_5

「産官学連携プロジェクト」大阪・関西万博にて出展

“IT技術で香川県善通寺市の特産品やまちの魅力を紹介”



報告_6

小児がんリハビリを変えるVRコンテンツを岡山大学と共同開発
“**つらい**”を“**楽しい**”に変える



学校法人 電子学園

日本電子専門学校



岡山大学
OKAYAMA UNIVERSITY

報告_7

30年連続出展！

「東京ゲームショウ2025 in 幕張メッセ」(9/25-28)



報告_8

第28回スポーツフェスティバル2025開催

6/30 in 東京ドーム

キャッチフレーズ「Feeling Fun」



報告_9

第56回 日専祭(学園祭) 開催

11/1-2

キャッチフレーズ「**楽しいが溢れだすひとときを**」



報告_10

文部科学省 総合教育政策局が本校を視察

- ・橋爪審議官を始め、9名が来校。
- ・今後の政策立案に活かすことを目的に、専門人材の育成において実績のある本校の教育現場を視察



報告_11

学校法人電子学園 多 忠貴 理事長

“文部科学大臣が「**専修学校教育功労者**」として表彰”





NEXT10「日本電子専門学校のさらなる伸張」

(1)「建学の精神」の実現に向けた 「教育の質の保証・向上」

校長 杉浦 敦司

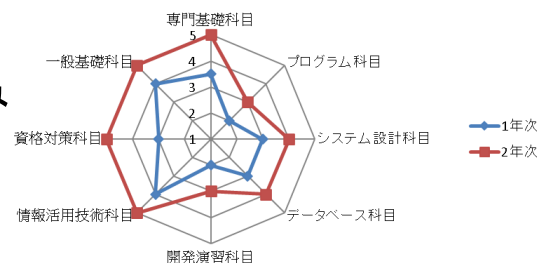
NEXT10（日本電子専門学校の更なる伸張）の確実な実施 学修成果の再設定プロジェクト

ディプロマサプリメント(仮称)による学修成果の可視化

今年度の前期については、**文部科学省による「学校教育法の一部改正」に伴う省令の発出が遅れたことが影響し、目立った進捗はありません。**

【現状】

- ・ディプロマサプリメントの基本フォームを作成済み
- ・ディプロマサプリメントの作成手順書を作成済み



NEXT10（日本電子専門学校の更なる伸張）の確実な実施 学修成果の再設定プロジェクト

情報処理科ディプロマサプリメント(例)

学修カテゴリと2年後期の学修成果

カテゴリ	カテゴリスキルの説明
ITリテラシ	ITに関する汎用的な知識
プログラミング	プログラミングに関する知識・技術
DB・SQL	データベース設計・SQLに関する技術
設計	ソフトウェア設計・UMLに関する技術
Web	Webアプリケーション開発技術
サーバ構築・運用	Linux・クラウドに関する技術



学修・カテゴリ別到達度累計表



強み	ITの知識がしっかり身に付いています。資格取得は技術力の証明になります。ITパスポート試験、基本情報技術者試験など1ランク上の資格を目指すといでしょう。		
課題	全てにおいて平均以上の知識・技術が身に付いており、学習の成果に表れています。すばらしい学習成果と書えます。		
学修カテゴリ	あなたのスキルレベル		
ITリテラシ	3.0	3	基本情報技術者と同水準の実践的な活用能力を有する。
		2	ITパスポートと同水準の知識を有する。
		1	情報活用試験3級と同水準の基礎知識を有する。
プログラミング	2.3	3	OCPJ-Silverに相当するJavaのプログラミング知識を有する。JSP、Servletを基にした基本的なWebアプリケーションが作成できる。
		2	OCPJ-Bronzeに相当するオブジェクト指向プログラミングの知識を有する。継承、インタフェース、例外を利用し、効率良く開発を行うことができる。
		1	プログラム言語の基本的な文法を修得し、適用出来る。
DB・SQL	2.5	3	ER図やUMLを用いて草図制作のデータベースを自ら設計出来る。適切に正規化を行い、効率の良いテーブルを設計できる。
		2	挿入、更新、削除、結合を用いたSQLを実行し、データベースを活用したアプリケーションが作成出来る。
		1	SQLを用いて関係データベースから目的に合わせたデータを抽出出来る。

NEXT10（日本電子専門学校の更なる伸張）の確実な実施 業界のニーズに基づいた基礎的・汎用的能力の養成プロジェクト

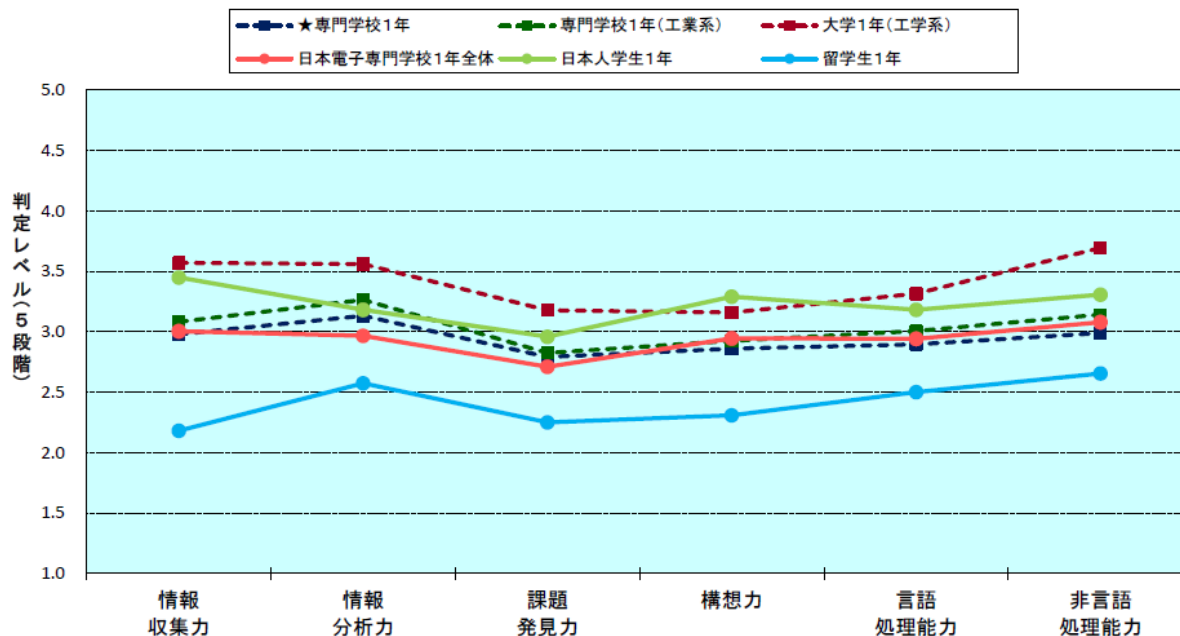
ジェネリックスキル診断「PROG」を活用し基礎的・汎用的能力を測定

※「PROG」とは、社会で求められている能力を“リテラシー”と“コンピテンシー”の二側面で客観的に測定するアセスメントです。

リテラシー	知識を利用して課題を解決する力（≡思考） ・情報収集力 ・情報分析力（言語処理力、非言語処理力） ・課題発見力 ・構想力
コンピテンシー	経験を積むことで身についた行動特性（≡態度、技能） ・対人基礎力（親和力、協働力、統率力） ・対自己基礎力（感情制御力、自信創出力、行動持続力） ・対課題基礎力（課題発見力、計画立案力、実践力）

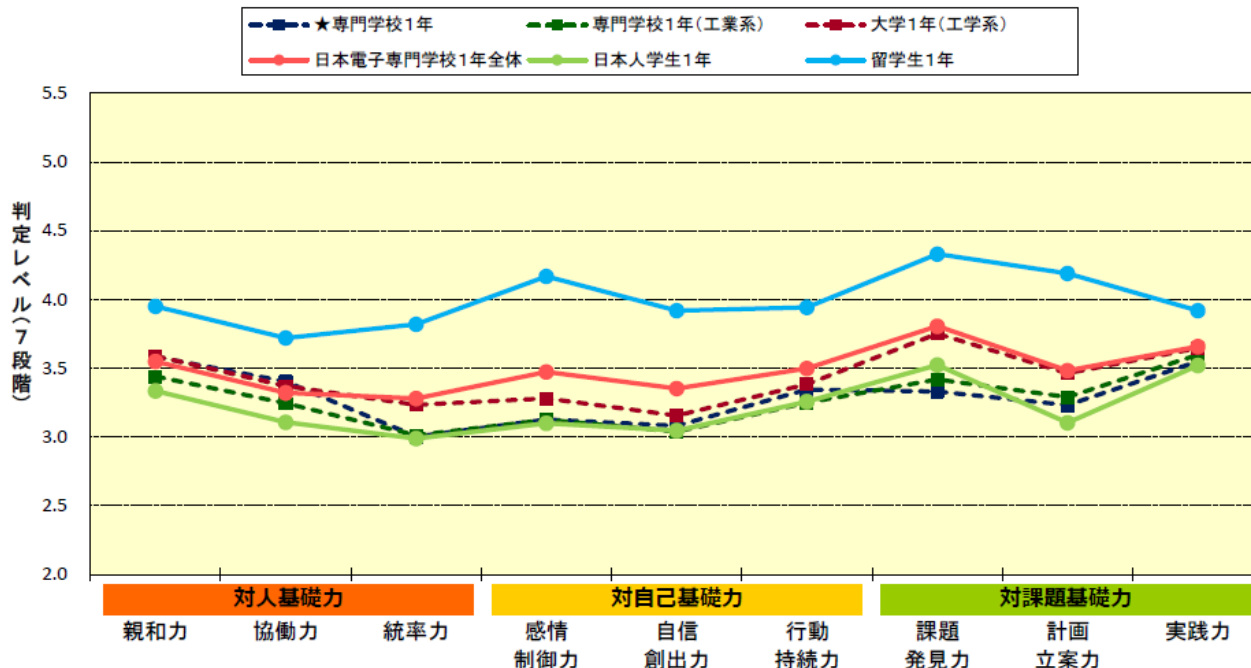
NEXT10（日本電子専門学校の更なる伸張）の確実な実施 業界のニーズに基づいた基礎的・汎用的能力の養成プロジェクト

リテラシー診断の比較(1年生全体)



NEXT10（日本電子専門学校の更なる伸張）の確実な実施 業界のニーズに基づいた基礎的・汎用的能力の養成プロジェクト

コンピテンシー診断の比較（1年生全体）





NEXT10「日本電子専門学校のさらなる伸張」

(2) 学生主導で社会人基礎力を養う キャリア教育の充実

キャリアセンター長 井上直樹



(2) 学生主導で社会人基礎力を養うキャリア教育の充実

◆本テーマの目的

- ① 学生自治会の適正運用
- ② 学生主体の学校行事の在り方の検討
- ③ クラス内組織の検討を通して、学生の社会人基礎力の向上を図ること

(2) 学生主導で社会人基礎力を養うキャリア教育の充実

① 学生自治会の適正運用

- ・入学式における新入生のサポート
- ・新入生オリエンテーション時における、学校生活紹介
- ・新入留学生歓迎会開催（学生自治会 主催・予算管理）
- ・クラブ同好会紹介イベントの開催（学生自治会 主催）
- ・ボランティア活動『地域貢献（清掃）』・『西新宿シニア活動館パソコン教室』
- ・ボランティア活動（新宿警察署 痴漢撲滅キャンペーン）
- ・ボランティア活動（江戸幕府鉄炮組百人隊 出陣の儀）
- ・学生向けリーダー研修の実施（3年目・26名参加）
- ・学生自治会新聞の発行



(2) 学生主導で社会人基礎力を養うキャリア教育の充実

① 学生自治会の適正運用

・令和7年度 学生自治会メンバー

役 職	氏 名
会 長	伊東 凜
副会長	前原 洸翔 石井 陽翔
総 務	吉野 一輝、下園 紗月 他 23名
広 報	松尾 花奈、舩井 武蔵 他 37名
イベント	土井 瞬太郎、飯塚 愛々海、齋藤 一虎、丹下 瞬 他 45名

(2)学生主導で社会人基礎力を養うキャリア教育の充実

① 学生自治会の適正運用



キャリアセンター長
井上 直樹様

2025年10月7日

学生自治会 本部
菅野 司
松田 圭太郎

第28回スポーツフェスティバル 満足度アンケート調査結果報告書

日頃より学生自治会主催のイベントにご参加いただきありがとうございます。誠にありがとうございます。
このたび、学生自治会を通じてスポーツフェスティバル満足度アンケートを実施いたしました。
また、調査に基づいては結果の分析なども行っており、心より感謝申し上げます。
スポーツフェスティバルアンケートの調査結果報告書を作成いたしましたので、ご覧いたします。

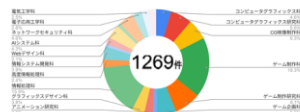
1.調査概要

- 調査目的
 - 学生の参加状況や行動データを分析し、来年度のスポーツフェスティバル運営や企画の改善に活かすため
 - 競技やイベント内容に対する学生の意見を収集し、より充実したプログラム作りの参考とするため
 - 後継者としての満足度や課題を把握し、案内パンフレットや公式サイトの利便性向上を図るため
 - 今後の学生参加促進に向けた環境整備や平安点の解消を目指すため

- 調査期間 7月23日(月)～8月9日(金)
- 回答件数 1269件

回答者属性(回答率)

- 学年別 1年630件 (49.9%) 2年503件 (42.3%) 3年66件 (42.8%)
- 学科別



(2) 学生主導で社会人基礎力を養うキャリア教育の充実

② 学生主体の学校行事の在り方の検討

- ・「学生主体による新しい学校行事提案プロジェクト」を立ち上げ、検討を継続してきた。
- ・検討初期はなかなか具体的なアイデアが出ず、停滞時期もあったが、「地域連携」を通じた活動経験が一つの突破口となり、今後はこの経験を基に新たな行事の形を模索していく方針となった。
- ・学生には、主体的な取り組みから新たな気づきを得て、それを形にしていく経験を重ねてほしいと考えている。
- ・2025年度のスポーツフェスティバルは、開催時期が6月になったことで、在校生の役割分担がより明確となり、円滑な運営につながった。
- ・教職員の間には運営手法や役割分担などにおいて違和感や課題も残っているが、こうした試行錯誤こそが、現代社会に即した学校行事の新しい在り方を見出すための一歩であると捉えている。



(2) 学生主導で社会人基礎力を養うキャリア教育の充実

② 学生主体の学校行事の在り方の検討

- ・一方で、留学生の参加機会は増加傾向にあるものの、全体に占める割合としては依然として少ない状況がある。
- ・今年度当初、留学生を対象とした秋季イベントの企画を検討していたが、現時点では具体的な実施計画には至っていない。
- ・今後は、**留学生を含む多様な学生が互いの文化を理解し合いながら共に企画を進める多文化共創型行事や 地域連携がヒントになっているため、地域団体との協働による新しい学校行事(例:地域交流フェスティバル など) を検討し発展していきたい。**



(2)学生主導で社会人基礎力を養うキャリア教育の充実

③ クラス内組織の検討を通して、学生の社会人基礎力の向上を図ること

- ・今年度は前期より「クラス委員交流会」を定期的を実施し、クラス内におけるクラス委員の役割を明確化するとともに、学生が主体的にクラス運営に関わる仕組みづくりを進めている。
- ・各クラスから選出されたクラス委員が定期的に集まり、学校生活に関する意見交換や課題共有を行いながら、クラス委員のリーダーシップやコミュニケーション能力が育成されるとともに、クラス内外の連携が促進されている。
- ・今後は、クラス委員交流会を通じて得られた学生の声を学校運営や行事計画に反映させる仕組みを整備し、より主体的で多様性に対応したクラス運営を目指していく。
- ・さらに、**クラス内の役割でクラス委員以外で設置した方が良いと思われる役割を、下半期の運用の中で最終提案することを今年度の最終着地点とする。**



NEXT10「日本電子専門学校のさらなる伸張」

(3)新設学科開発フレームを活用した 調査・検討

クリエイター教育 五十嵐淳之

(3)新設学科開発フレームを活用した調査・検討

学科新設

+

既存学科の見直し

常に「魅力のある、募集力の高い状態」を
保つための土台作り

2025年度計画

- ①単位制移行に伴うカリキュラム見直し、その延長として
学科新設・既存学科統廃合可能性の検討
- ②単位制の新設学科「高度ゲーム制作科」(4年制)の実運用に
向けた諸対応
- ③リスキリングのニーズ調査、調査結果を踏まえた諸対応
- ④高等学校・日本語学校教員対象講習会の実施

①単位制移行に伴うカリキュラム見直し、その延長として 学科新設・既存学科統廃合可能性の検討

- ・大川部長とともに基本方針を検討

日本電子らしさ = 「就職に強い、面倒見が良い」という
魅力を損なわないことを基本方針とすることを決定

- ・夏季研修会2日目

「DenshiVision2030の取り組み共有グループワーク」にて
単位制移行に基づくカリキュラム開発、学習時間の確保や
質の担保、教育体制について意見交換を実施

①単位制移行に伴うカリキュラム見直し、その延長として 学科新設・既存学科統廃合可能性の検討

・カリキュラム見直しの指針となる

「学校教育法施行規則の一部を改正する省令」が
当初予定よりも大幅に遅れ、上半期中に交付されず

→ **カリキュラム見直しの実対応は下半期に実施**

※2026年度カリキュラム → 単位制に読み替え済

※2027年度カリキュラム → 現在作成・入力中



②単位制の新設学科「高度ゲーム制作科」(4年制)の実運用に向けた諸対応

- ・ゲーム分野3学科、コンピュータグラフィックス科
各科長と各種調整を実施、以下について内諾をいただく
- ・担当教員の手配(異動を含む)
- ・PC実習室の確保

初年度運用の目処は立った

③リスキングのニーズ調査、調査結果を踏まえた諸対応

・4月中旬 ～ 5月上旬にかけて 計6社のヒアリングを実施

→ IT系企業は自社内での研修体制が充実
独自研修システム、Udemy等オンデマンド教材の活用
新入社員研修は自社内で実施、または研修業者に外注

専門学校による講座実施等のニーズは、ほぼないことを確認



③リスキングのニーズ調査、調査結果を踏まえた諸対応

- ・中小企業へのヒアリング調査は未実施

→ 11/12(水)東京商工会議所新宿支部が本校を視察
参加企業に対するヒアリング調査を実施予定

④高等学校・日本語学校教員対象講習会の実施

- ・今年度より日本語学校教員も対象に加える
日程、希望講座等に関するアンケートを結果を踏まえ
学生募集部、各学科と調整、12講座をラインアップ

8/22(金)に講習会を開催(開講10講座)

高等学校15校、日本語学校5校、専門学校1校より
のべ32名が参加

④高等学校・日本語学校教員対象講習会の実施

- ・満足度4.7点(5点満点) 高評価
 - ・他の専門学校とは違い、より授業に活かせる内容
 - ・参加して本当に良かった
 - ・講習体験をもとに積極的に御校を薦めている
 - ・他校よりも生徒に勧められる学校だと思う
 - ・また次回も参加したい
 - ・同僚へも参加を促したい

④高等学校・日本語学校教員対象講習会の実施

- ・3年ぶりに開催できたこと、
新たに日本語学校の教職員にご参加いただけたこと、
参加者の満足度が高かったことは成果
本校教員・学習環境の魅力を伝えるという目的は達成
- ・参加人数が少なかったのは課題
告知時期・告知方法の見直しを実施

下半期の実施項目

- ①2026年度・2027年度新入生カリキュラム(単位制移行)の完成サポート
- ②単位制の新設学科「高度ゲーム制作科」(4年制)の運用開始に向けた諸対応
- ③リスキリングのニーズ調査、調査結果を踏まえた諸対応



NEXT10「日本電子専門学校のさらなる伸張」

(4)遠隔授業の標準化・質保証と 先端テクノロジーの利活用

エンジニア教育 大川 晃一



NEXT10 プロジェクト

遠隔授業の標準化・質保証と先端テクノロジーの利活用

・ 検討目的

1. 遠隔授業ガイドラインの策定を行う
2. ナレッジベースの構築を行い、業務に関する知見を共有化する
3. 教育への先端テクノロジー利活用の検討を行う

NEXT10 プロジェクト

遠隔授業の標準化・質保証と先端テクノロジーの利活用

・プロジェクトの計画項目

1. 遠隔授業の運用に関するベストプラクティス集の作成
2. ナレッジベースの運用促進
3. 授業サポート用LMS の複数学科展開のフォローアップ
4. 先端テクノロジーを活用した授業運用ツールの導入
5. 学内全体で利用するLMS の検討・調査



Next10プロジェクト 「遠隔授業の標準化・先端テクノロジーの活用」



遠隔授業ベストプラクティス

2023~2024



Distance Learning Best Practices 2023~2024



ベストプラクティス集 の作成



遠隔授業ベストプラクティス

ハイフレックス型授業による柔軟性のある学びの実践



授業基本情報

学科	モバイルアプリケーション開発科
運用授業科目	Web システム開発 2
科目概要	PHP を使って Web システム (EC サイト) の構築とモバイルと連動するための API 制作をする。
対象学年	2 年生
履修学生数	約 30 名



授業フロー

本授業は週 2 コマの授業となっており、1 コマを遠隔授業で、1 コマを対面授業で実施するように時間割を設計しています。遠隔授業では主に技術要素の講義を行い、演習課題の実装までを行います。対面授業では、遠隔授業時の作業進捗の確認、トラブル対応などを先に行い、その後提出課題の提示、コーディングを行います。

遠隔授業 (ハイフレックス)

1. PHP の技術要素講義
2. 課題に合わせた演習問題の提出
3. 演習問題の実装
4. 実装解説

対面授業

5. 演習問題の実装確認
6. 課題提示
7. 課題提出



Tips1：受講方法の選択と注意点

本授業は学校に来て受講しても、自宅受講しても良いハイフレックス型授業であることを事前に学生に通知し、自分で決めるように指示をします。(自宅受講する・しないは事前に連絡しなくても良い)ただし、日の出席不良、作業進捗の遅い学生には学校に来て受講するように指示をしますと語をしています。平均的に 3 割の学生が自宅受講して受講しています。

教員の指示で登校

自宅受講

自主的に登校

図) 受講方法割合 (平均)



Tips2：授業配信の工夫とネットワーク対策

Meet での配信時には、基本的にウィンドウ共有ではなく画面共有で配信をします。また、配信画面を学生側サブディスプレイに投影することで、学校に接続している学生は Meet に接続することなく授業に参加しています。(学内ネットワーク帯域のダイエット) 入力文字列等の共有については Classroom に直接アップロードすることで対応しています。



Tips3：遠隔授業における進捗確認の方法

遠隔授業時の作業進捗の確認については、アカデミック契約済みのレンタルサーバ (lolipop) を用意し、全員共通の URL にアップロードするように指示しており、共有画面上で全員の進捗を確認できるようにしています。そのため、一括アクセスのスクリーンで全学生の作業結果を確認することができます。演習課題の実装が遅れている学生はリアルタイムで把握することができます。また、学生間でも問題解決のためのアドバイスのやり取りをしています。



学生からのフィードバック

学生の意見 A さん

家が遠い生徒からすると、とても助かる形式だと思います。また、この形式は自主性が身につくとも思いました。私自身、自宅オンライン授業を受けると必要以上にリラックスしてしまい、集中力が切れてしまうため、逆に登校して授業を受けようとする意思が芽生え、自分自身が鍛えられたと感じました。

学生の意見 B さん

授業の最初に出席をとるのは当然なのですが、授業最後に名前を呼んでも反応がない生徒の出席を欠席扱い(本当にその扱いにしていたか不明ですが...)にするのは、真面目に授業を受けている生徒からしたらとても嬉しいので、是非継続した方がよいと思います。そうでもしなければ、真面目な生徒が報われません。

学生の意見 C さん

他の学生がどんな Web ページを作っているのか、また自分の作成した Web ページを皆の前で評価される仕組みがとても良かったです。全員の作成物が共有されるため、作成できていないと、先生から声がけがあり、オンライン授業であってもサボることができなかったです (笑)。

NEXT10 プロジェクト 遠隔授業の標準化・質保証と先端テクノロジーの利活用

ナレッジベースの運用状況について

調査期間	投稿件数	閲覧（ページビュー）	閲覧数 （ページ単位での集計）
2025/4/1～2025/9/30	46 件	1290	597 人
2024/9/24～2025/3/31	86 件	1660	574 人
2024/4/1～2024/9/23	7 件	1418	508 人
2023/9/20～2024/3/31	12 件	748	431 人
2023/4/1～2023/9/19	10 件	672	376 人
2022/9/20～2023/3/31	17 件	982	642 人

NEXT10 プロジェクト 遠隔授業の標準化・質保証と先端テクノロジーの利活用

ページビューの上位記事

ページ名	カテゴリ	ページビュー	作成者
Google Meet を利用したオンライン授業配信	10_授業運用	313	大川晃一
教員用日本電子専門学校 Web サイト更新のための基本情報	80_Web サイト	52	小原弥恵
問い合わせ集	30_事務処理関連	45	財務経理部
学生氏名の文字化け解消手順	20_クラス運用	36	大川晃一
【口座情報更新】インターンシップ学生保険申込書	30_事務処理関連	34	財務経理部

NEXT10 プロジェクト 遠隔授業の標準化・質保証と先端テクノロジーの利活用

プログラミング学習用LMS の複数学科展開の フォローアップについて

モバイルアプリケーション開発科の
知見を夜間部情報処理科へ展開

日本電子専門学校

Java基礎1_Ex051_九九の表

問題文

九九の表を作成してください

制約

- 繰り返し処理を使用すること
- 九九の段数は `int` 型変数 `size` に格納すること

ヒント

実行結果の通りに数字を揃えるには `System.out.printf("%3d", 数値);` を使用すると良い。

```
1 import java.util.Scanner;
2
3 public class Main {
4
5     public static void main(String[] args) {
6         // 標準入力から九九の段数取得する
7         Scanner scanner = new Scanner(System.in);
8         int size = scanner.nextInt();
9
10        // TODO 表を表示できない場合は、メッセージを表示する
11
12        // TODO 九九の表を作成し、表示する
```

テスト出力

```
Hello track!
>
```

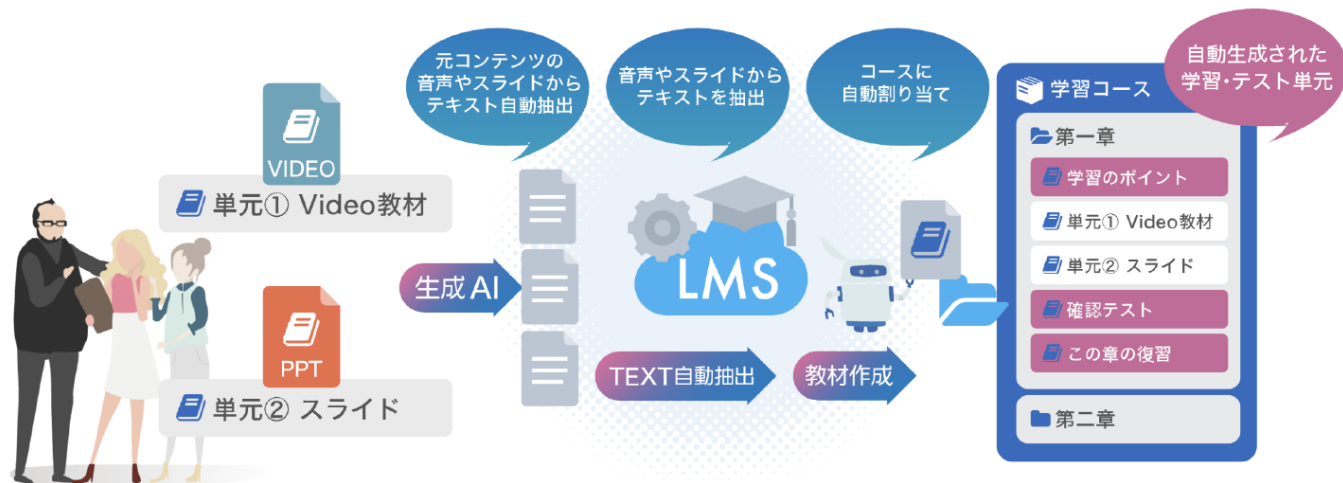
実行サーバとの接続を待機しています。
問題文を読みながらお待ちください。
> echo "Hello track!"
> コマンドを入力してください

Ready!

テストを実行

NEXT10 プロジェクト 遠隔授業の標準化・質保証と先端テクノロジーの利活用

- 先端テクノロジーを活用した授業運用ツールの導入および学内全体で利用するLMS の検討・調査を行った



NEXT10 プロジェクト

遠隔授業の標準化・質保証と先端テクノロジーの利活用

・ 後期の取り組み

- 後期には有償版生成AIの試用をプロジェクトメンバーにて実施。その取組をナレッジベースへ投稿するように促した。
- ナレッジベースに公開された情報から有用なものについて後期に更新を予定しているベストプラクティス集への採用を検討していく
- プログラミング学習用LMSの他学科導入を支援する
- LMS導入の試用を行い、次年度導入可能かどうかを検討する



教育全般の重点項目

(1) 学校教育法の改正に伴う 単位制への移行

エンジニア教育 大川 晃一

単位制への移行対応

学校教育法の改正を受けた主な制度改正事項

専門課程

	改正前
修了認定	【800単位時間（単位制による学科にあっては30単位）×修業年限以上の授業時数（単位数）】の履修（修得）
入学資格	高等学校等を卒業した者に <u>準ずる学力</u> があると認められる者 （現行の要件） ・ <u>修業年限が三年以上の専修学校の高等課程を修了した者</u> 等
在籍者の呼称	生徒
専門士の称号	告示に基づき、 <u>文部科学大臣が認定した課程を修了した者は称することができる。</u>
自己評価及び外部評価	<u>小学校等と同等の項目での自己評価が義務。</u> <u>学校関係者評価が努力義務。</u>



改正後

【31単位×修業年限以上の単位数】の修得（<u>単位数に統一</u>） ※学年による教育課程の区分を設け、各学年ごとに学生の修得単位数に基づき当該学年の課程の修了の認定を行うことも可能とすることを検討。
高等学校等を卒業した者と <u>同等以上の学力</u> があると認められる者 （改正後の要件） ・ <u>専修学校の高等課程（文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。※）を修了した者</u> 等 ※現行制度における大学入学資格が得られる高等課程
学生
<u>特定専門課程（※）を修了した者は称することができる。</u> ※現行制度における大学編入学が認められる専門課程
<u>大学と同等の項目での自己点検評価が義務。</u> <u>外部評価が努力義務。</u>

単位制への移行対応

時間制から単位制への移行について

専門士

	改正前（認定制度）
修業年限	2年以上
修了認定	総授業時数が1,700時間（62単位）以上
成績評価	試験等により成績評価を行い、その評価に基づいて課程修了の認定を行っていること



	改正後（特定専門課程の基準）
修業年限	2年以上
修了認定	<u>総単位数が62単位以上</u>
成績評価	試験等により成績評価を行い、その評価に基づいて課程修了の認定を行っていること

- これまでの時間制・単位制の併用から、単位制に統一化される
- 単位数(31×修業年限)が特定専門課程の修了認定要件となる
- 学年による教育課程の区分を設けず、**自分のペース**で短期教育プログラムの積み上げにより、専修学校の正規課程を修了する学修スタイルを構築

単位制への移行対応

単位制移行に対応する上での基本方針

【日本電子らしさ＝「就職に強い、面倒見が良い」を損なわない】

- 単位制のメリットを活かし、できるだけ柔軟な履修方法を提供し、学生の自発的な自主学習、課外活動による成長の機会を増やしていきたい
- これまでのカリキュラムは資格取得率・就職率など、育成人材像に対する成果を出していると考えられるため、その方針は踏襲していきたい

単位制への移行対応

対応を検討するにあたっての問題点

- 2026年4月入学者から対応しなければならない
- 2026年4月～2028年3月については、2025年以前入学の「時間制」のカリキュラムと2026年以降入学の「単位制」のカリキュラムを同時に運用することになる(3年制学科を考慮)

=>単位制のメリットを活かしたカリキュラム編成は2028年入学からにしたほうが影響が少ないと考えられる

単位制への移行対応

2026年の単位制対応について

- 座学・実習・演習の別について
- 卒業要件について
- 学年制について(進級について)
- シラバス表記の変更

=>単位制運用のみの「高度ゲーム制作科」については、単位制のメリット活かした運用とする。

単位制への移行対応

講義・演習・実習の区分について

- 単位数の計算に必要であるため、以下に再定義をする

講義	教員の説明によって行われる授業(インプット中心)
演習	教員からの説明をふまえ、学生が試行し理解を深めていく授業(インプット、アウトプット双方向の取り組み)
実習	実業務と近しい環境で行われる授業
実験	ある事柄について検証し、その原因や条件を明らかにする授業

単位制への移行対応

卒業要件について

- ・ 2年制で62単位、3年制で93単位を卒業必要単位数とすると、現状では各学科の育成人材像を達成することが困難であると思われる
- ・ 必修科目(選択必修科目を含め)の単位をすべて修得する、かつ単位数が卒業必要単位数を満たしていることが条件とする

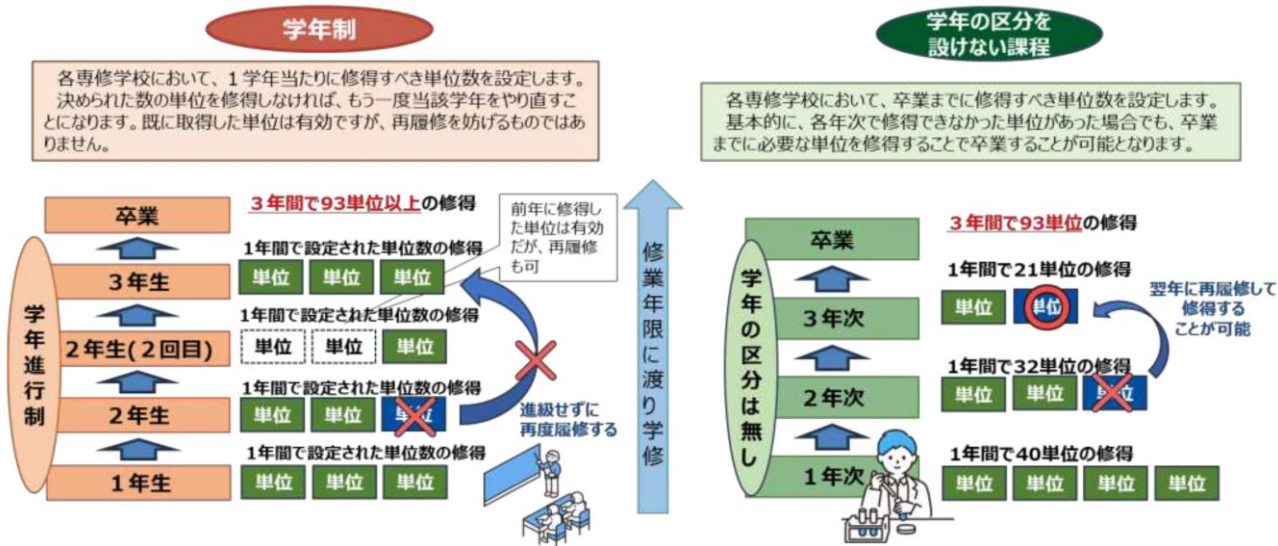
現状のカリキュラムの必須科目・選択科目の別は大きく変えることなく、
必須科目の単位を全て取得した際に卒業とする=>学則に明記する

- ・ ただし、柔軟な履修方法とは言い難いため、全学生が単位制カリキュラムを履修することになるタイミングで再度検討する

単位制への移行対応

進級要件について

- 落とした科目の再履修が困難(ほぼ全科目必修であることを考えると)であるため、当面は**学年制で運用**する





単位制への移行対応

今後の取り組み

- 授業時間外学習の取り組みをシラバス上に明記する
- 「日本電子らしさ」を損なわないようにしつつも、柔軟な履修方法を提供するカリキュラムの検討



教育全般の重点項目

(2)DenshiVision2030「日本電子専門学校 の確かな歩みと新たな未来」

校長 杉浦 敦司

DenshiVision2030

「日本電子専門学校の確かな歩みと新たな未来」

学校法人電子学園2026～2030年度中期計画

DenshiVision2030～未来をつくる。期待にこたえる。～

【中期計画のテーマ】

- ① 学校法人電子学園の新たな挑戦
- ② IUの更なる伸張
- ③ 日本電子専門学校の確かな歩みと新たな未来
- ④ 経営資源の盤石化



「こたえる」を次々と。

学校法人電子学園

DENSHI GAKUEN

DenshiVision2030

「日本電子専門学校の確かな歩みと新たな未来」

【検討テーマ】

① 学習環境の改善

- ・モデル教室の構築／共用空間の整備／インフラ、付帯設備の整備

② 学生サービスの向上

- ・多様性とグローバル化への対応／部署の再編を含めた学生サービスの再構築／学生サポートシステムの導入

③ 「建学の精神」の実現に向けた「教育の質の保証・向上」

- ・単位制への移行に基づくカリキュラム開発

④ 学生募集の強化

- ・社会への貢献及び電子学園の発展に資する多様な入学者の確保

DenshiVision2030

「日本電子専門学校の確かな歩みと新たな未来」

ご意見の収集

対象：電子学園ステークホルダーの皆様

期間：10月9日～23日

皆様から頂戴したご意見は真摯に受け止め、中期計画の内容に適切に反映させてまいります。

御協力を頂きまして、誠に有難うございました。

